

令和4年度 県立鉾田第二高等学校 自己評価表

目指す 学校像	課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びと、将来を見据えた系統的なキャリア教育を充実させ、一人一人の進路希望の実現を図るとともに、地域社会との連携を推進し、地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成する、地域に信頼される学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>農業科・食品技術科・総合学科とともに各学科・系列の特色を生かした学習活動や、地域と連携した取組を実施している。</p> <p>地域の生徒数が減少しており、中学生や保護者に向けた学校の教育活動の情報発信が重要になっている。</p> <p>進学指導では、4年制大学、専門学校、就職と多様な進路にきめ細かく対応していく必要がある。特に、高校での専門的な学習を生かせる国立大学等の4年制大学への進学意欲の向上を図るとともに、進学指導体制を構築していく必要がある。</p> <p>また、就職指導では、生徒が職種の適性を主体的に把握できるよう指導していくことと、求人数を確保していく必要がある。</p> <p>生徒指導では、学校の教育活動全体で、生徒の自律心、人間関係調整能力、思いやりの心等を育成する必要がある。</p> <p>部活動では、コロナ禍により活動が制限された状況の中で、上位大会出場を目指して、練習方法を工夫して取り組んだ。</p> <p>働き方改革の推進では、教職員一人一人が恒常的に業務を見直し、引き続き、業務の効率化を図っていく必要がある。</p>	1 「農業科」「食品技術科」「総合学科」の特色を生かした学校づくりの推進	① 各科・系列の特色を生かした学習に取り組むとともに、積極的に情報発信をする。 ② 1人1台端末(タブレット等)を活用して学習を進める(主に1、2年)。 ③ 学力向上に向けて、授業改善に努めるとともに、家庭での学習習慣を確立する。(授業アンケート年2回、学びの基礎診断活用、教員の積極的な研修参加と情報交換等) ④ 地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成するために、生徒が地域を理解し、地域に愛着がもてるよう活動内容を工夫する。 ⑤ 学校の教育活動を広報するために、年間10回の新聞掲載等を目指して、積極的にマスコミに取材依頼する。	A
	2 生徒一人一人の進路希望を実現するための生徒との「関わり」の深化	⑥ 卒業生の進路決定率100%を目指して、個別面談や進路ガイダンスなどを計画的・効果的に実施する。 ⑦ 就業体験や検定合格・資格取得を推進(卒業までに1人1つ以上の検定合格又は資格取得)。 ⑧ 進学希望者に向け、進学先の理解を深めるよう指導するとともに、課外学習の充実を図る。 ⑨ 就職先の確保(卒業生のいる企業訪問や新規求人開拓のための企業訪問)。	B
	3 基本的な生活習慣と規範意識の定着及び家庭・関係機関との連携の推進	⑩ 生徒の自律心(自己指導能力)、自己有用感を育成し、基本的な生活習慣と規範意識を定着させる。 ⑪ 朝の立哨指導や授業等で気になる生徒がいた場合、すぐに学年・担任と情報共有する。 ⑫ 人間関係のトラブルやいじめの早期発見と早期対応をする(生徒が相談しやすい関係の構築)。 ⑬ SNS等のトラブル防止と適切な使用方法を早期に指導する(情報モラル教育の推進)。 ⑭ 交通事故ゼロを目指して、自転車や原付バイクの安全運転を徹底する。 ⑮ 家庭・関係機関との連携に努め、問題行動の未然防止及び拡大を防ぐとともに、学校への理解と信頼を深める。また、実践的研修を実施して、教員一人ひとりがいじめに適切に対応できるようにする。	B
	4 特別活動・部活動等とおした社会性の確立や人格の形成	⑯ 生徒会活動や学校行事の実施方法を工夫して、生徒の人間関係の調整能力を高める。 ⑰ ボランティア活動や地域連携活動等への積極的な参加を促し、社会性の確立に努める。 ⑱ 「キャリア・パスポート」を活用し、主体的に学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成を図る。 ⑲ 部活動等を活性化し、礼節や規則を大切にすることを育む。	B
	5 安全・安心な教育環境の整備と自己健康管理能力の育成	⑳ 定期的な「安全点検」や清掃活動の充実により、安全・安心な教育環境の整備に努める。 ㉑ 定期的な啓発活動等により、生徒及び教職員の緊急時の対応能力を高めるとともに、自己健康管理能力を高める。	A
	6 校内における適切な働き方改革の推進	㉒ 教職員一人一人の業務を見直し、効率化を図ることにより、負担軽減に努める。 ㉓ 1ヶ月あたりの時間外勤務45時間以内の実現を目指して、働き方改革の意識を高める。	B

別紙様式2 (高)

三つの方針		具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラディエーション・ポリシー)	(長期的目標) 地域振興に貢献するリーダーとして活躍する人財を育成する。	B	B 地域と連携した活動を通して、地域への理解を深める。また、地域への愛着を高める必要がある。 早期の進路目標の設定及び的確な支援と助言に努める。また、ICT端末を活用した学習習慣の確立を図る必要がある。 本校でやりたいことや進路目標を設定できるよう中学生に教育活動をPRして、努力する生徒の確保につなげる必要がある。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 生徒一人一人の進路希望に応じた指導体制による、生徒全員の進路希望を実現する。	B		
	「入学者の受入に関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒の入学を期待する。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	国語	基礎学力の向上	・生徒の学習実態の把握に努め、理解不十分な生徒に対してきめ細かな指導を行う。③	A	A ・学力や日常生活、社会生活で必要となる言語能力の向上。 ・主体的な学びの実現に向けた授業づくり。 ・適切な評価方法や評価基準の設定と担当者間の共有。
		わかる授業への取組	・進路希望を実現するため、各科目の言語活動を通して生徒の表現能力を高める。③	B	
			・副教材を活用し、各学年・年次と連携して生徒の語彙力向上に努め、資格取得を促す。⑦	A	
			・科目担当者間で連携し、新教育課程に対応した効果的な指導方法や有用な教材の情報交換に努める。③	A	
			・教員の指導力を高めるため、研修等に積極的に参加する。③	A	
	地歴公民	基礎学力の向上	・定期的な確認テスト・小テストの実施や課題学習を通し、基礎学力の充実・定着化を図ると共に、自学自習の確立を図る。③	B	B ・ICT機器を活用した授業展開 ・自発的な活動を促す授業展開。 ・基礎学力の向上。
		わかる授業への工夫改善 進路に応じた指導の充実	・学習内容を理解させるため、きめ細かな指導を行うとともに、適宜質問の時間を設ける。③	B	
			・教材研究の充実により、学習内容の精選及び明確化を徹底する。③	B	
			・定期考査問題の内容への配慮及び課外・補習等の実施により、生徒の進路希望に応じた学習指導に努める。⑧	B	
	数学	基礎学力の向上	・生徒の特性をふまえて教科書の精選を図り、個に応じた指導を図る。③	A	B ・生徒が1人1台所有しているタブレットを効果的に活用した授業の展開を工夫する。
			・学習内容の理解を深めるため、生徒が問題を考察する時間を確保し基礎的な学力の定着を図る。③	B	
			・アクティブ・ラーニング的な手法を取り入れ、ICT(タブレット・電子黒板など)の活用を推進し、生徒たちが主体的に学べるような授業を展開し、学習意欲を向上させる。②	B	
			・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。③	B	
		進路に応じた指導の充実	・個々の進路希望に応じた課題等を与える。③	A	
			・学校設定科目において、生徒の進路希望に応じて、指導内容等を工夫し指導にあたる。③	A	
			・教科内の連携を図り、新課程で変化した箇所を中心に指導方法を共有する。また、評価方法についての共通理解を図る。③	B	
	理科	基礎学力の定着	・生徒の学習の理解度に応じたきめ細かい指導を行う。③	A	B ・自然科学全般への興味関心を引き出す工夫や、継続的な実験の実施など、来年度以降も積極的な取り組みが必要である。
			・学習の理解を深めるために実験・観察を行い、生徒の興味・関心を高める。③	B	
・成績が不振な生徒に補習を実施して学力の定着を図る。③			A		
・定期的に課題を提出させることにより、家庭学習習慣を定着化させる。②			B		
進路目的を達成するための学習指導		・学校設定科目等の実施により、生徒の進路に沿った指導を行う。①	A		
		・進路実現のための課外授業を実施する。⑥	B		

別紙様式2 (高)

教科指導	保健体育	運動技能の向上	・生徒一人一人に新課程に適した課題を設定し、計画的に運動を実践する。③	A	A	・体育の実技授業でのICT活用。そのために体育館のwi-fi環境の整備を望む。
			・体づくり運動やランニングなどの補強運動を取り入れながら実施する。③	A		
		構成・協力・責任などの態度の育成	・互いにゲームのルールや技能を教え合える雰囲気作りをする。③	B		
			・集団行動の重要性を理解し、他者と協力しやりとげる能力を育成する。③	B		
			・能力に応じて、仲間と安全に留意して行えるルールを設定する。③	A		
	生涯を通じて健康的に生活できる資質や能力の育成	・ICTの活用による資料や事例の提示を通して健康的に生活するための資質能力を育成する。②	A			
		・学校行事等を利用して、生涯を通じて運動に取り組む資質を育成する。⑯	A			
	芸術	教材の精選・研究と指導の工夫改善	・芸術を愛好する心情を養い、生徒の個性を生かせる教材の選択・研究を行う。③	A	A	・授業に主体的に学習に取り組むため教材の精選、ICT活用に必要な設備の整備。
			・主体的な学習活動の指導を研究・実践する。③	B		
	英語	授業の工夫・改善	・ICTを活用し生徒の意欲や関心を引き出すと共に、英語力向上に繋がる実践的な活動を工夫する。②	A	A	・基礎学力の向上 ・教科内での評価基準を再度検討し、明確化する。教科内で共通理解を図り、統一した評価を行う。
			・観点別評価について教科で協議し、評価の統一を図る。CAN-DOリストを活用した授業を展開する。③	A		
		基礎学力の向上	・習熟の不十分な生徒に対し、課題を与え、補習を実施する。③	A		
			・放課後課外や模試対策等を行い、基礎学力の向上を図る。⑧	A		
	資格取得等の支援	・英語検定への受験を勧め、1次試験事前課外、2次試験面接指導を行う。⑦ ・大学入試対応のスコア獲得のためのGTECの受験をすすめ、対策を講じる。⑦	B			
	家庭	基礎的・基本的な知識と技能の習得	・教科内での共通理解を図り、わかりやすく統一された授業を展開する。③	A	A	・来年度も引き続き、指導方法や評価方法等について、教科内の共通理解の徹底を図る。 ・ICTを有効的に活用した授業を展開できるようにする。
			・評価基準を明確にし、観点別に評価を行う。③	A		
			・段階見本の作成・活用やICTの活用等の教科内研修による指導力の向上により、知識と技能の確実な定着を図る。②	B		
		地域との連携	・銚田市と連携した授業展開を行い、学びを地域還元する活動を実施する。④	A		
		安全で衛生的な実習環境の整備	・施設・設備の定期的な清掃と点検を実施し、安全衛生管理を徹底する。⑳	A		
	情報	基礎的・基本的な知識及び技能の習得	・個人の学習理解度を把握し、きめ細かな指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。③	B	A	・教科情報の学習内容について、生徒がより生徒が興味・関心をもてるよう指導方法を工夫していく必要がある。
情報活用能力の育成		・コンピュータ機器等を積極的に活用し、情報活用能力を育成する。②	A			
情報モラルの育成		・授業を通して、情報社会のモラルや態度を育成する。③	A			
農業	基礎的・基本的な知識や技術の習得	・生徒一人一人の多様な個性及び理解度に応じた授業と実験実習を展開し、基礎・基本を大切にしたいわかりやすい指導方法の確立に努める。③ ・プロジェクト学習を主にした体系的な実験実習を取り入れ、生徒の知識・技術の定着を図り、人間性豊かな職業人育成を目指す。①	A	A	・販売会の実施を積極的に行う。 ・個に対応した指導はできていると考える。しかし、授業の展開について、理解できていない生徒にあわせていることが多いので、理解できている生徒をさらに伸ばすように指導方法を工夫していきたい。	
	事故防止の徹底	・農場や実験室の環境整備並びに施設・設備や農業機械の点検整備を充実させる。⑳ ・安全教育を主とした授業や実験実習を展開し、事故及びヒヤリ・ハットの防止に努める。㉑	A			
	資格取得の推進	・生徒の目的意識を高め、小型車両系建設機械、フォークリフト等の資格取得を支援する。⑦	A			
	環境教育の実践	・ポジティブリスト制度や農業生産行程管理（GAP）に沿った授業や実験実習を展開し、安心・安全な農産物の栽培法を定着させる。①	A			
食品技術	知識・技術の習得	・基礎・基本を大切に、一人一人に対して、わかりやすい指導方法の確立に努める。③ ・タブレットなどを効果的に活用し、生徒の知識・技術の定着を図る。②	B	B	・ICTを活用した授業・実習を進める。	
	事故防止の徹底	・生徒の安全に配慮した実験・実習を展開する。また、食品衛生に徹した実習を実践する。⑳	A			
	資格取得の推進	・生徒の目的意識を高め、「危険物取扱者試験」等の資格取得を支援する。⑦	B			

別紙様式2 (高)

教科指導	商業	基礎的・基本的な知識の習得	・学習の理解度に応じてきめ細かな指導や補習を実施し、基礎的・基本的知識の定着を図る。①	A	A	・資格取得を奨励し、今年度よりも高い合格率を目標にする。
		資格取得の奨励	・学習の成果として、資格取得を奨励し、合格率の向上を図る。⑦	A		
		職業観の育成	・商業、農業の科目を履修し、6次産業について理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。④	A		
	福祉	基礎的な知識と介護技術の習得	・主体的・対話的な授業展開を実践するため、ICT等を活用し学習内容や方法を再検討する。②	A		
実習を通した実践的な態度と職業観の育成		・実習の事前・事後指導を徹底し、実習の成果を発表させることで、事後の学習に反映させる。① ・施設実習を通して、職業観や健康管理・マナー・礼節の大切さを身につけさせる。⑦	A B	A	・2.3年で、より充実した実習が実施できるよう、受入先の施設との打合せや準備を徹底。 ・ICTのさらなる活用を図る。	
教務	「農業科」・「食品技術科」・「総合学科」それぞれの特色を生かした教育課程の検討と運営	・新学習指導要領による新教育課程を実施したうえでの課題の洗い出しを進める。③	A	B	・より効率的な学校運営を目指していく。 ・開かれた学校運営の構築を目指していく。	
		・GIGAスクール委員会と連携し、端末等を効率的に活用できる環境を整える。②	A			
		・「総合学科」の生徒の履修計画の一助となるように、「産業社会と人間 学習ノート」を編集し直し、効果的に活用する。①	B			
	生徒が自己実現を果たせる時間割の編成	・学年・年次との情報交換を密にし、生徒の進路実現を目指した時間割の編成をおこなう。① ・時間割編成についての研修をとおして職員の共通理解を図る。③	A B			
	開かれた学校を目指し地域への情報発信	・ホームページ更新回数を増やし、各種媒体へ情報を提供し本校の活動状況を地域に発信する。①	A			
		・桜芳祭・緑苑祭をはじめ公開授業や学校説明会を工夫し、その内容の充実に向けて、回数を増やす。④	B			
生徒指導	基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成(校内外でのマナーの向上)	・遅刻ゼロ運動を継続する。段階的な指導を徹底する。スマホ・携帯のマナーを徹底する。⑬	B	B	・基本的生活習慣の確立及びマナーの向上。 ・SNSによるトラブル防止。 ・交通事故防止の指導の徹底(原付、自転車等)。	
		・登下校指導による、挨拶の励行及び服装指導等を行う。校外においても制服を正しく着用させる指導の徹底を図る。また、公共の場所において正しい判断のもと行動できるようにする。⑩	B			
	自転車・原付バイクや四輪車の安全指導	・原付バイク運転実技講習会や交通講話、安全点検を実施し、交通事故の悲惨さや運転手の責務等について認識させ、交通ルールを遵守させるとともに、交通事故の未然防止及び安全指導を行う。⑭	A			
	いじめ・SNS等での誹謗中傷防止及び早期発見	・いじめはどの生徒にも起こりうる問題であることを十分認識し、生徒の変化を注意深く観察し、声かけをし相談しやすい関係をつくる。⑫	B			
特別活動	特別活動の活性化と自発的活動の促進	・生徒会活動や委員会活動の活性化。生徒達が積極的に活動できるような環境をつくる。各委員会が、年間計画案に基づき活動する。⑯	A	B	・生徒が学校行事について主体的に計画、運営できるような環境を整える。 ・部活動のあり方について整理していく。 ・ボランティアへの参加について年間を通じて促していく。	
		積極的な部活動への参加と部活動環境の整備	・部活動加入率を高めるため、新入生の年度当初の見学会に必ず行かせることと、教員側も積極的な呼びかけをし、部員確保に努め活発な活動を図る。⑰			B
	学校行事の活性化と積極的なボランティア活動への参加促進	・施設、用具の充実を図り、運動部・文化部がより良い活動が行えるようにする。⑱	B			
		・仲間への思いやりや、集団の中での自己の役割を理解し、お互いに協力し合える態度を身につけさせる。⑯	A			
		・学校行事それぞれの意義を理解させ、すべての生徒が積極的な参加を目的とした指導を展開し、各行事の成功へと結びつける。⑯	B			
		・各種のボランティア活動参加募集の告知を徹底し、積極的な参加を促すようにする。⑰	A			
	キャリア・パスポートの有効活用	・自己の活動や成長を確認できるようなキャリア・パスポートを作成させる。自己実現に向けて将来への見通しや展望を図り、自己のキャリア形成に生かす態度を養わせる。⑲	B			

別紙様式2 (高)

進路指導	進路希望実現に向け た進学、就職指導の充 実	・進学希望者対象の課外授業や土曜講座を充実させ、高い学力の育成を図る。⑧	A	B	・進路意識の低い生徒に系統的な 指導をする。 ・就職希望者の就職試験に向け て基礎学力を向上させる。 ・ICTを活用して、学習習慣の 定着を図り、基礎学力の向上を 図る。 ・探究活動の一環として資格取得 を促す。
		・就職希望者に対する面談指導を徹底するとともに、課外授業を充実させ基礎力の向上を図る。⑥	B		
		・生徒が主体となった活動への参加を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。⑩	B		
	キャリア教育による進 路意識の高揚	・進路講演会・出前授業等、効果的な進路行事の立案・実施に努める。⑥	A		
		・各種の資格取得を短期目標に据えさせることにより、進路意識の高揚を図る。⑦	B		
		・各種の職場体験等の取り組みを通して、健全な職業観・勤労観の育成を図る。⑦	B		
進路に係るガイダンス 、カウンセリング機能 の充実	・進学・就職ガイダンスを実施して、進路に対する積極的な意識付けを図る。⑥	A			
	・個別面談を充実させ、進路目標の随時見直しを図る。⑥	A			
	・生徒・保護者へ提供する進路情報の内容充実を努める。必要に応じて、リモートでの説明会等を行う。⑥	B			
保健厚生	環境美化の維持 自己健康管理能力の育成 緊急時の対応能力の育 成	・定期的な安全点検や日々の清掃指導の徹底を図って校舎内外の安全・美化の実現に努める。⑳	A	B	・新型コロナ終息後は、避難訓 練などを慎重に戻していく。
		・保健だより等をおとして、健康に対する関心を高め、生徒自身が健康的な生活に取り組める態度や能力を育成する。㉑	B		
		・防災避難訓練をおとして訓練の必要性を認識させると共に、主体的な危機回避能力を育成する。⑩ ・心肺蘇生およびAEDの教職員研修を実施し、緊急時に対応できる資質を養成する。㉑	B		
図書	図書委員会活動の活 性化	・委員会の定例化をすすめ、係ごとの活動を円滑に行う。⑩	A	B	・各教科や総合的な探究の時間で 利用できる書籍を各担当と連携 して提供していく。 ・昼休みや放課後に他の校務が入 ると図書館業務に専念できない ので、専任の学校司書の配置を 希望する。
		・スタッフマニュアルをもとに図書委員すべてが役割を自覚し積極的に活動する。⑩ (図書だよりの発行・館内ディスプレイや展示の工夫・蔵書点検など)	A		
	図書館の利用・活用 の推進	・教科・年次(学年)・他分掌との連携により、読書活動を啓発して貸出数を増やす。⑩	B		
		・配架・案内表示などの館内の環境を整備する。⑩	A		
		・購入希望図書の調査を実施する(教員・生徒)。映像資料を充実させる。⑩	A		
	図書部運営の円滑化	・教育課程の展開に即応した資料や進路関連図書の充実を図る。⑩	B		
・スタッフマニュアルをもとに担当職員すべてが係の仕事に関わる。㉒ ・学校司書の配置。㉒		C			
渉外	学校・家庭・地域社会 ・関係機関との連携	・各委員会活動・PTA会報・ホームページ等を通し、生徒・学校の活動状況を理解してもらい、家庭・役員・地域社会 ・関係機関の学校への関心や協力体制を高める。また、後援会の援助体制を有効に活用する。①	B	B	・100周年記念事業の成功へ向け て、協力を依頼していく。
教育相談	スクールカウンセラー (SC)を活用した教 育相談体制の充実	・教員間の連携を密にし、生徒が抱える問題を早期に見出し、指導方針を立て対応するように努める。⑩	B	A	・教員間の円滑な情報共有。 ・いじめ、友人関係のトラブルの 未然防止を図る。 ・生徒対応に役立つ教員研修会を 実施する。
		・SCと教員の連携や情報共有が円滑に行える体制の確立を図る。⑩	A		
	・「教育相談だより」を発行し、生徒や保護者にSC配置の相談室を知らせるとともに、気軽に利用できる相談室の整備に 努める。⑩	A			
農 場 部	農業に関する基礎的、 基本的な知識と技術・ 実践力習得の推進	・教育相談に関する情報の提供と、校内研修会の充実を図る。㉑	A	B	・農産物・加工品の販売方法を工 夫していく(イベント等への参 加を含む)。 ・スマート農業に関する内容を授 業で取り入れていく。
		・教員の相談室利用を促し、SCとの相談や助言を通して、生徒への関わり方などについて改めて考え学ぶ機会の確保に 努める。㉑	B		
	農業クラブ関係行事や 校外の各種行事への 積極的参加	・体験的教育活動をおとして、勤労意欲の醸成と基礎的な知識及び技術に基づく実践的な能力態度を育成する。①	B		
農業専門教育の充実	・農業教育の対外的な活動を通し、専門教育の成果を広報するとともに、各種イベントへの参加などにおいて地域社会と の連携を図り、生徒の社会的資質向上に努める。⑩ ・体験的専門教育を基とした学校農業クラブ活動を実践し、科学性・社会性・指導性の醸成を図る。① ・スマート農業の動向に対応した指導を目指し、積極的に研修へ参加し教職員の更なる資質向上に努める。③	B			

別紙様式2 (高)

1学年 ・年次	基本的生活習慣の確立	・欠席、遅刻、早退の回数を抑える。⑩	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣に関して、一部に課題の残る生徒がいるため、継続して指導する。 ・スタディサプリを活用し、自主的に学習に取り組むことを習慣化できるよう指導する。 ・生徒各自が自分の選択したコース、系列の授業に対して、目的意識をもって取り組むよう継続的に指導していく。
		・時間厳守、チャイム着席を徹底させる。⑩	B		
		・頭髪服装指導を実施し、身だしなみの大切さを理解させる。⑩	B		
		・マナーやルールを守れる生徒を育てるために、規範意識の向上を図る。⑩	B		
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の定着に向け、課題や小テストを設ける。③	B		
	・各種検定試験を推奨し、学校・家庭を問わず学習する習慣を身につけさせる。⑦	C			
	進路指導及びコース・系列選択、科目選択の指導の充実	・各授業を通して、自分の将来を考える機会をつくり、コース選択（農業科・食品技術科）や系列選択（総合学科）の一助とする。①	A		
		・生徒個々のニーズに沿った進路実現に向け、卒業生や進路に関する講話等、指導の場面を設ける。⑥	A		
2学年 ・年次	基本的生活習慣の徹底	・欠席、遅刻、早退の回数を抑える。それぞれ5回以下を目標とする。⑩	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪、服装、規範意識については、大多数の生徒は問題ないが、一部の乱れのある生徒には、家庭と連携を図り、継続して指導する必要がある。 ・家庭学習については、しっかりと取り組んでいる生徒多いが、取り組み状況がよくない生徒には、基礎学力向上の大切さを理解させて、家庭学習に取り組むように働きかけていく必要がある。
		・時間厳守、チャイム着席を徹底させる。⑩	B		
		・頭髪服装指導により身だしなみを整えさせる。⑩	B		
		・規範意識の向上を図り、マナーやルールを守れる生徒を育てる。違反件数を昨年度以下に抑える。⑩	A		
	家庭学習の習慣化と学力向上	・家庭学習の定着に向け、課題や小テストを設け、学力向上を図る。③	B		
		・各種検定試験を推奨し、学校・家庭を問わず学習する習慣を身につけさせる。卒業までに1人1つ以上の資格取得を目指す。⑦	B		
	進路指導の充実	・各授業や模試などを通して、自分の将来を考える機会をつくり、進路実現の一助とする。①	A		
		・生徒個々のニーズに沿った進路実現に向け、進路に関する講話、ガイダンスの場面を設ける。年間2回程度の実施を目標とする。⑥	A		
		・生徒が自身の希望する進路に向けて計画を立てるため、個人面談を行うとともに、クラス掲示や資料配付を充実させて環境を整える。⑥	A		
3学年 ・年次	最高年次としての自覚と基本的生活習慣の確立	・マナーやルールを遵守し、社会人としての責任ある行動や言動ができるように育成する。⑩	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の進路決定及び進路決定後に変更がないように生徒及び保護者との連携を図る必要がある。 ・就職、進学に向けた学力向上、及び学力の定着が必要である。 ・欠席、遅刻をなくすために、家庭と連携を図る必要がある。
		・時間厳守・期限厳守を徹底させる。⑩	B		
		・自転車・バイク・自動車の交通安全指導の徹底と事故防止に努める。⑭	B		
	進路実現のための学習指導と進路指導の強化	・進路希望にあわせた指導の充実を図り、各種模擬試験や学校説明会、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。⑧	B		
		・進路に関する個人面談や面接指導を充実させる。⑥	A		
	生徒との積極的な関わりと家庭との連携	・各種資格・検定試験等への積極的な参加をよびかける。⑦	A		
・普段から家庭との連絡を密にして情報の共有化を図り、保護者との相互理解の上で進路・生徒指導を円滑に進め、生徒の進路実現を目指す。⑮		B			

※評価規準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった